

授業科目名	保健医療学概論(2300101)		
時間割名	保健医療学概論(51201)		
時間割担当	吉岡隆之 守本とも子		
実施期	前期	単位数	1 必修
曜日・時限	金・1		

授業の目標・概要

(概要) 実際の保健医療現場では、自然や社会の中で生き、主観性や固有の感性をもつ人間を対象としている。科学的、客観的な観点のみならず、身体的、心理的、社会的及びスピリチュアルな面を統合的、調和的に捉える全人的な健康観に立ち、人間が本来兼ね備えている自然治癒力を引き出し、自らが主体的に癒すことを支援する全人的ケアが重要となる。本講義は、健康科学、医学、看護学の専任教員がオムニバス形式で担当し、本学部が目指す全人的ケアに主眼をおいた保健医療学について、その背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の視点を含む医療と看護の原点などについて幅広く学び、その後の主体的な学習の礎とする。

(単位認定者/守本とも子)

(オムニバス方式/全8回)

(吉岡隆之/2回) 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例などについて、主としてヘルスプロモーションの観点から概説する。

(中川 晶/3回) 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例などについて、主として統合医療や心身医療の観点から概説する。

(守本とも子/3回) 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学に関連し、医療と看護の原点について「生命現象と死」「看護とは」「生活者としてのQOL」の視点から考察する。

学習の到達目標

1. 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例について、主としてヘルスプロモーションの観点から理解する。
2. 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例について、主として統合医療や心身医療の観点から理解する。
3. 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学に関連し、クオリティ・オブ・ライフ(QOL)の視点を含む医療と看護の原点などについて幅広く理解する。

授業方法・形式

基本的には講義形式で授業を進めるが、適宜、デジタル教材等を活用した授業もおりませで行う。また、毎回、授業内容に関する小課題の提出を求める。授業内容に関する積極的な意見の発表、発言などを奨励する。

授業計画

- 第1回 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方などについて、主としてヘルスプロモーションの観点から概説する。(吉岡)
 - 第2回 諸外国及び日本における全人的ケアの現状と実践例などについて、主としてヘルスプロモーションの観点から概説する。(吉岡)
 - 第3回 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の背景や基本的な考え方などについて、主として統合医療や心身医療の観点から概説する。(中川)
 - 第4回 諸外国及び日本における全人的ケアの現状と実践例などについて、主として統合医療の観点の観点から概説する。(中川)
 - 第5回 諸外国及び日本における全人的ケアの現状と実践例などについて、主として心身医療の観点から概説する。(中川)
 - 第6回 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学に関連し、医療と看護の原点について「生命現象と死」の視点から考察する。(守本)
 - 第7回 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学に関連し、医療と看護の原点について「看護とは何か」に視点をおいて考察する。(守本)
 - 第8回 全人的ケアに主眼をおいた保健医療学に関連し、医療と看護の原点について「生活者としてのQOL」の視点から考察する。(守本)
- 担当者の都合により、各回の順番を変更することがある。

成績評価の基準

定期試験40%、小課題30%、授業への取組(積極的発表、発言など)30%

準備学習・復習及び授業時間外の課題

毎回の授業の終了時に、授業内容に関する小課題及び次回の授業内容に関する小課題を課し、自己学習(復習・予習)を促す。小課題は次回授業開始時に提出する(一部、自主的な発表を求める)。

履修上のアドバイス及び留意点

本学部が目指す全人的ケアに主眼をおいた保健医療学の基本的な考え方などについて、教員2名がオムニバス形式で担当する。しっかり学び、その後の主体的な学習に役立てていただきたい。

教材・教科書

授業内容に関する資料等を配布する。

参考書

参考図書、参考文献等については適宜、情報を提供する。